

UH88 / UKIRT 日本時間 プログラム小委員会報告

泉浦秀行（岡山天体物理観測所）

◇1. UH88 / UKIRT 日本時間とは？

- ・ハワイ島マウナケア山頂にある望遠鏡のうちの二つ、
1) University of Hawaii, 88-inch telescope (2.2m, UH88),
2) United Kingdom InfraRed Telescope (3.8m, UKIRT)
についての日本人向け観測時間枠のことである。

- ・観測夜を国立天文台の予算から購入している。
- ・2008年度からハワイ観測所が業務を担当している。
- ・2008-2010年度の3年間、国立天文台が予算を保証している。
(2500万、2300万、2100万。その後の保証は今のところない)
- ・2008年度から利用者の研究費による観測時間の買取りも可能になった。
(UH: ~50万/夜、UKIRT: ~200万/夜)

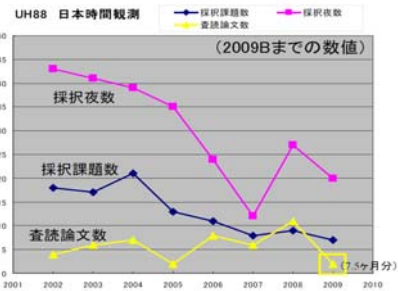
◇申込と割付の状況

適正2倍				適正3倍					
UH88	応募 件数	応募 夜数	割当 夜数	競争率 (夜数)	UKIRT	応募 件数	応募 夜数	割当 夜数	競争率 (夜数)
S05B	16	49	19	1.8	S05B	5	11	4	2.8
S06A	11	30	10	2.7	S06A	9	21	6	3.5
S06B	13	40	14	2.7	S06B	10	20	5	4.0
S07A	7	13.5	7	1.9	S07A	7	16	2	6.4
S07B	6	18	5	3.6	S07B	8	16	3	5.3
S08A	3	11	7+2	1.7/1.2	S08A	3	10	2	5
S08B	8	24.5	12+6	2.0/1.4	S08B	10	22.5	6	3.8
S09A	2	7	5	1.4	S09A	2	6	3	2.0
S09B	8	23	10+5	2.3/1.5	S09B	3	8	4	2.0
S10A	6	23	10	2.3	S10A	5	14	8.5	1.6
S10B					S10B				

(赤字は観測者資金による買取分、並びにそれを含めた競争倍率)

◇2. 2008年度から新プログラム小委員会

- ・2008Bから2011Aまでの審査(但し2011年3月まで)を担当する。
- ・委員: 泉浦秀行(国立天文台、委員長)、伊藤洋一(神戸大)、
長尾透(愛媛大)、本原顕太郎(東大)、小林尚人(東大、2009A審査から)。
- ・UH88/UKIRT側折衝窓口: 寺田宏(国立天文台、ex officio)
- ・世話人: 竹田洋一(国立天文台、ex officio)
- ・事務処理: 吉田千枝(国立天文台)
- ・顧問: 田村元秀(国立天文台)、今西昌俊(国立天文台)



注意: 2009年度の査読論文数の急な落ち込みは、残り4.5ヶ月分の勘定がまだ入っていないための、人為的なものの可能性があります。それらを算入後に向上とすれば、探採夜数が長期的に減少する傾向にある一方で、査読論文数が長期的な上昇傾向の時期にさしかかった可能性があります。

◇3. 委員会開催

- ・第一回 2008B (Aug-Jan) 審査 2008年5月9日@国立天文台三鷹
- ・第二回 2009A (Feb-Jul) 審査 2008年10月15日@TV会議
- ・第三回 2009B (Aug-Jan) 審査 2009年4月14日@TV会議
- ・第四回 2010A (Feb-Jul) 審査 2009年10月20日@TV会議

◇4. 2010B (2010年8月 - 2011年1月期) 予告

- ・予算は1050万円。
- ・実質的に最終セメスター(残りは2011年の2月と3月のみ)。
- ・考えられる割当夜数配分
UH88 (平均9.9) 5 | 9 | 13 | 17 | 21 + 自己資金
UKIRT(平均3.9) 4 | 3 | 2 | 1 | 0
(但し、無理には全部を割り当てない。次の期に繰り越しも選択肢のうち)
- ・日程:
3月中旬 公募開始
4月中旬 応募締め切り



探採夜数が長期的に減少する傾向にある一方で、査読論文数が長期的な上昇傾向に乗った可能性があります。

今まで通り、よい観測提案を期待しています！

◇お知らせ

2010Aにおいて、日本時間側で観測時間の割り当てを予定した課題のうち、UH時間側で観測時間割り当てを予定した課題と科学目標、使用装置、観測日がいずれも重なるものがありました。なお、日本時間側とは、私たちプログラム小委員会を指し、UH時間側とはUHのTime Allocation Committeeのことを指します。

UH時間側から観測時間割り当て不可の連絡があったので、日本時間側は観測時間割り当ての変更が必要となりました(UHの都合で変更になること自体はこれまで何度かありました)。

日本時間側の当該課題PIから異議申し立てがあったので、プログラム小委員会として公平性を欠かない範囲で、UH時間側に観測課題のマージ或いは観測時間の分割の可能性を問い合わせました。この問い合わせに関する対応をUH時間側は当該装置PIに委ねました、その結果として、時間割り当てについて何も変化は起こりませんでした。

調査の結果、課題審査と観測時間割り当ては近い時期に独立になされていました。この日本時間側とUH時間側で重複の著しい課題に関する調整については、当該装置がPI装置であり、UH時間側の課題が装置PIの指導学生の研究課題であったため、UHディレクターがそちらに観測時間を割り当てると決定していました。その時点で当該装置PIに観測時間に関する決定権が移ったということのようです。

UH88の利用において調整が必要な事項が発生した場合は、最終的にUHディレクターの決定に従うことになります。これまで物事は極めて円滑かつ友好的に進んできています。また、今後も同様と期待されます。そのことで特に何か心配する必要は全く無いのですが、それでもなお、この点をユーザー各位は改めてご承知おきください。